新規就農研修生の確保などに要する資金助成について取り組んでまいります。

稲作については、生産者の方々が、消費者が求める食味を追求しながら推進を強化しているところですが、国政における転作の方向も変更されようとしており、今後、新冠産米の消費拡販に向けた強化策について支援してまいります。

畑作、そ菜については、基幹作物であるピーマンの選果場の設備が更新され作付面積の拡大も図られたところですが、さらなるブランド化への強化について支援してまいります。

昨年新設されたピーマンの選果場

漁業では、漁業協同組合や関係団体と連携を強化し、種々協議のうえ、新規就漁対策並びに子弟継承対策の支援のほか前浜の資源確保対策やヨシキリザメ等による漁網被害対策、さらには新冠海岸整備対策の推進など各種事業を積極的に推進してまいります。

林業では、地球環境に優しい資源である木材生産が伸び悩むとともに、これまで掲げた他業にも共通する担い手不足など深刻な状況にあることから、森林組合をはじめ関係機関と連携し課題解決に注力する必要があります。

6　開かれた行政

6点目は、開かれた行政の実現についてであります。

新冠町は平成に入り新たなまちづくり・まちおこしとして各種の事業を展開してきておりますが、現状を見ますと各種プロジェクト事業は、衰退の一途をたどっているのが実態です。

町民との対話、町民に寄り添ったまちづくりが消滅しつつあることが背景にあり、町民との一体感が大きく欠落していることが要因と感じております。

町民との対話を大切にする行政として一から出直すため、身近なところの公共施設の活用方法、各種行事、イベントの洗い直しを行う一方、向こう5年間・10年間のまちづくり、町おこし事業のための町民組織を設置し、実効あるものにすべきと考えております。

また、町職員の意識改革が最も重要であります。「誰のための役場なのか。」「誰のための職員なのか。」トップをはじめ全職員の意識改革なくしては新冠町の明日は無いとの思いで改革に取り組んでまいります。

このため、町政懇談会の実施や町民会議などの設置に取り組みます。

「町民が第一」だからこそ、全ての情報を公開してまいります

町民生活を支えるのが役場であります。役場が取り組んでいる政策、これから取り組もうとしている政策の経過、現状など全ての情報を公開すべきと考えております。

政策の何が課題なのか、何を解決すべきなのか。どのような政策を展開すべきなのか。町民からの要望、意見を聞きながら、役場としての態度、方針を決め、町議会にはかって最終決定することを町民は望んでおります。

7　市街地計画と環境整備など

7点目は、市街地計画と環境整備です。

日高道を意識した宅地及び道路整備計画や海岸線国土崩壊による海中汚染の漁業被害解消対策を推進するほか、道の駅ゾーンの大胆なリニューアルなど町民との対話を進めながら明解な計画樹立と町民にわかりやすい公開をしてまいります。

8　通信格差解消

8点目は、通信格差の解消であります。

携帯電話がつながらない地域における情報通信インフラ整備の促進など、町の情報計画を樹立し、優先順位も考えながら適正な事業を検討する必要があります。

特に技術革新の今、光回線に代わる移動系の利用を国も推奨しており、費用負担の大幅に少ない無線ブロードバンドなども含めた適正な事業を検討して参ります。

以上、私の町づくりに掛ける思いの一端を述べさせていただきましたが、これらの実現には、直ちにできるものもあれば、時間を要するものも多くあります。

しかしながら、町民との対話を重視し、拙速に進めることのないよう職員の能力を最大限引き出しながら、順次解決することにより「思いやりと笑顔にあふれた新冠」を実現することができると確信しております。

そのためには、「町民の声が生かされる町政」、「分かりやすく公平・公正な町政」、「町民と行政との協働のまちづくり」の3つを基本姿勢に身命を賭して全力で取り組む所存であります。

町民の皆様、議会議員の皆様、そして関係団体、関係機関の皆様のご支援を心からお願い申し上げ、新冠町長就任に当たっての所信表明と致します。

臨時会の議場の様子

中村義弘副町長・山本政嗣教育長が就任

～新しい副町長と教育長からのご挨拶～

副町長　中村　義弘

このたび私こと、去る5月9日、平成29年新冠町議会第2回臨時会におきまして、議会の同意をいただき、5月11日付けで新冠町副町長に就任いたしました。

新冠町の振興発展のため、微力ではありますが、誠心誠意全力を尽くしてまいる所存であります。

私は、42年間、役場職員として奉職させていただきましたが、再び、副町長として、町政運営に携わる機会を与えていただきましたことに対し、身に余る光栄であると同時に、重責を担うことに対し、身の引き締まる思いであります。

もとより、浅学非才の身でありますが、鳴海町長の補佐役として、町政発展のため、職員が一丸となり、協力しながら執行機関としての、責務を果たせるよう、全力を尽して参りたいと考えております。

現在、地方自治体が抱えている課題は、非常に多種・多様・多難で、その深さや、重さは、私が奉職した時とは、比較にならないほど難しい時代になっております。待ったなしに、やらなければならない課題もたくさんございます。

こういう難しい時代ですが、町長の政策目標であります「思いやりと笑顔にあふれた新冠」「町民が安心して住み続けられる新冠」の実現に向け、町民の皆様方の、お力添えをいただきながら、大変、微力ではございますが、粉骨砕身、努力する所存でございますので、皆様におかれましては、これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心から切にお願い申し上げ、就任に当たっての挨拶とさせていただきます。

教育長　山本　政嗣

教育長の就任にあたり、一言、ご挨拶を申し述べさせていただきます。

私は、これまで、26年余りにわたり一般行政職員として皆様にお世話になってまいりましたが、これからは教育行政の長としての立場で行政に携わることになるわけでございます。今、その重責を痛感し、経験したことの無いほどの緊張感をもって職務につかせていただいております。

現下の社会情勢は、少子化・高齢化・人口減少といった人口問題が、地域に様々な影響をもたらしておりますが、教育を取り巻く環境においても、法改正や学習指導要領の改訂など、様々な教育改革が、国レベルで、次々と進められております。

変化の激しい時代ではありますが、教育の目的は、個人の能力を伸ばし、そして、社会の担い手としての、必要な知識や資質を育むことにあると存じます。

特に子どもたちには、ふるさとを愛しながら、「夢を追う心」や「夢を実現する力」を育むこと、さらには、様々な困難に立ち向かう「生きる力」を育むことが教育に課せられた使命だとも考えております。

杉本教育長のもとで学ばせていただいたことを基本に、「現場に足を運び」「現場の意見を聞き」「現場に寄りそう」教育行政の実践に努めてまいりますとともに、人づくりこそが、新冠町全体の発展を実現する基盤であることを肝に銘じ、誠心誠意、職務にまい進する所存でございますので、今後とも、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げ、教育長就任のご挨拶とさせていただきます。